

解答プリント「中学社会・歴史的分野」

■発展プリント

7 江戸時代の社会と文化

【評価の観点】㊦：思考・判断・表現 ㊦：技能 ㊦：知識・理解

解答例	解説
<p>㊦ (1) エ</p> <p>㊦ (2) ウ</p> <p>㊦ (3) 東北</p>	<p>㊦ (1) ア 牛馬耕は鎌倉時代に西日本を中心に普及した。牛や馬を使うことで田畑を深く耕せ、生産力が増大した。</p> <p>イ 惣は南北朝時代に生まれた村落の自治組織で、近畿地方ではいくつかの惣がまとまって共同行動をとることが多くなった。惣の協議機関が寄合で惣のきまりとなる掟を定めた。掟では入会地・かんがい用水の管理、掟をやぶった者に対する処罰などを規定した。</p> <p>ウ 律令制での税負担について述べている。口分田は、班田収授法により支給された田で、収穫の約3%を租として納めた。調・庸は成年男子に課された税で、調は織物や地方の特産物、庸は労役のかわりに布を納めた。</p> <p>エ 幕府や藩の収入の中心となる米を多く収穫するために、江戸時代には新田開発がさかんに行われた。箱根用水、玉川上水の掘削による用水の確保、耕地を増やすための有明海・児島湾の干拓などはその代表である。</p> <p>(2) 箱根は東海道の小田原と三島の間に位置し、江戸を守るための要衝であった。日光・奥州道中には栗橋、中山道には碓氷峠などに関所が設けられた。</p> <p>(3) 河村瑞賢によって開かれた東廻り航路は、東北地方の日本海側の港を出発し、津軽海峡を通り太平洋側を南下して、房総半島を回って江戸に達する航路である。</p>
<p>㊦ (1) 石見銀山</p> <p>㊦ (2) エ</p> <p>㊦ (3) 各藩の蔵屋敷が置かれ、金融や商業の中心であったから。(26字、下線部の語句をすべて使う)</p>	<p>㊦ (1) 石見銀山は、戦国時代後期から江戸時代初期にかけて、日本で最大の採掘量をほこった銀山である。南蛮貿易やオランダとの貿易で、日本の輸出品の中心となった銀の多くはこの銀山から掘り出されたものと考えられている。江戸時代は幕府の直轄地となり採掘が続けられたが、末期になると銀はほとんど産出しなくなった。</p> <p>(2) 元禄文化は17世紀末から18世紀の初めにかけてさかえた。エの尾形光琳は元禄文化を代表する画家であり、光琳派とよばれる華麗な装飾画を大成した。代表作に「紅白梅図屏風」「燕子花図屏風」などがある。</p> <p>(3) 資料は大阪中之島の蔵屋敷の様子である。全国から米が集まった大阪には、堂島に米市場が設けられ、全国の米相場を左右した。</p>